

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

～泥面子の文様の世界～



展示解説の様子 子どもも大人も本物の泥面子に興味津々で、解説を聞いています。

毎年恒例となっている「雑司が谷案内処」での展示（当会・としま未来財団・豊島区教育委員会の共催）を、2015年10月から12月にかけて開催しました。また11月に展示関連イベントとして、雑司ヶ谷鬼子母神堂の境内の一角をお借りして、親子で泥面子をつくって遊ぼうも開催しました。

今回の展示では、「泥面子にみる文様の世界」と題し、雑司が谷遺跡で出土した直径2cm程の江戸時代の土製玩具である「泥面子」の文様に注目しました。泥面子の文様には、動物や昆虫、植物、人物、家紋、幾何学文様など様々な種類の文様が存在します。これらの文様と江戸時代の碗や皿などに描かれた文様を比べて、江戸時代の文様の世界について紹介しました。

また関連イベントの「親子で泥面子をつくって遊ぼう」では、雑司が谷地域文化創造館で、粘土を型に入れ泥面子をつくり、その後、鬼子母神堂の境内で、事前にスタッフが用意した泥面子を使ってゲームを楽しみました。参加された子ども達はもちろんですが、一緒に参加したお父さん、お母さん達も、多いに楽しんでもらったイベントとなりました。(榎本邦人)



泥面子づくりに夢中

イベントで使用する泥面子の型は、雑司が谷遺跡から出土した、本物の泥面子から型を起こしています。



江戸時代の遊びを再現した「まど」

まどに向かって、泥面子を投げ、点数を競います。老若男女問わず、楽しめる簡単なゲームです。

イベント参加

社会貢献活動見本市参加記

春雨降る3月12日(日)にNPO法人としてまNPO推進協議会と豊島区区民活動センター運営協議会が主催する社会貢献活動見本市に出展しました。今年は、豊島区新庁舎1階の広場「としまセンタースクエア」にて開催されました。豊島区内を中心とした社会貢献活動を行なう団体がその活動について自己紹介するこの見本市は、今回で10回目の開催となりました。参加団体は、当会を入れて47団体にもなりました。当会のブースでは、区内の遺跡と共に、調査会の活動についても紹介しました。スタッフの努力が実り、展示物と会の活動内容が評価され、去年に続いて展示優秀団体として賞をいただくこととなりました。当会の活動を様々な人に紹介できる良い機会のため、来年もまた参加したいと思えます。(山崎吉弘)



展示ブースの様子

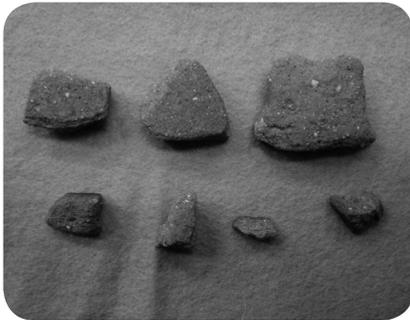
様々な団体が、趣向を凝らした展示を行ないました。

掘って、掘って、また掘って！

2015年度の後半は、巢鴨遺跡や染井遺跡での発掘調査が相続き、それぞれの調査地区で、縄文時代から近代までの遺構や遺物が発見されました。これらの発掘調査で、当会が携わった発掘調査についての速報を、いち早くご報告します。

染井遺跡 駒込3-11-4地区

駒込3-11-4地区は、2015年9月に遺跡の現状を確認するための調査を行ないました。近世の調査地区周辺は、下駒込村と駒込七軒町の境付近で、文献資料や周辺の発掘調査等から植木屋が多く居住していた場所と考えられています。今回の確認調査では、近世の遺構や遺物、縄文土器が発見されました。また近世後期以降と考えられる土蔵基礎の一部や、出土遺物から江戸時代から江戸時代に埋没したと考えられる谷が確認されています。



出土した縄文土器

縄文時代中期の阿玉台式土器の破片と考えられます。

これら

これらの遺構や遺物が近世の植木屋に関係するかは、検出された遺構や遺物からは、現在のところ明らかになっていません。しかし、少なくとも近世後期以降には調査地区は造成がなされ、土蔵が建てられていた空間であったことだけは、判明しました。今後は周辺の調査成果と合わせて、周辺地域の土地利用について考えていきたいと思ひます。



南側(写真右)から北側(写真左)に向け、傾斜している様子が土層の状態から観察されます。

土層の様子 地上面から2m近く掘り、土層の堆積を観察しました。この深さでも関東ローム層は確認されず、黒褐色の土が堆積していました。これは、調査地区の旧地形が谷などの斜面地で、そこに黒褐色の土が流れ、堆積したためと考えられます。

巢鴨遺跡 巢鴨3-20-20地区

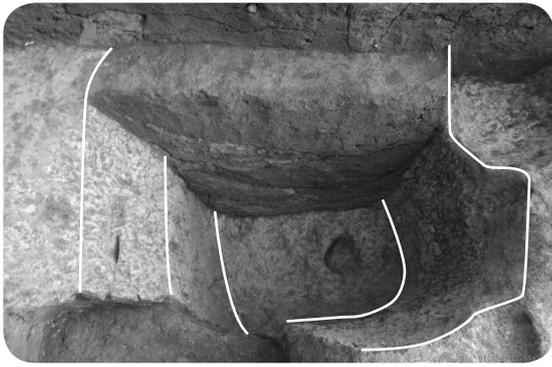
2015年11月から12月にかけての2週間、巢鴨3-20-20地区で発掘調査が行なわれました。今回の発掘現場は、地蔵通りより南側に入った、奥まった場所で、2007年度から2008年度にかけて行なわれた、島屋メリヤス・長寿堂合同調査地区の裏手に当たります。また調査地区周辺は、江戸時代の巢鴨町家の奥の空間と考えられ、植物を植えた跡や畑の跡などが多く発見されています。

今回の発掘調査では、周辺の調査と同様に、地下室や植栽痕などが見つかっています。また近代の遺構と考



検出された大型建物の基礎

地蔵通り方向から敷地の奥に向かい、建物基礎が並んでいます。



江戸時代の地下室

底面や壁面には調整が施されていました。

えられますが、大型建物の基礎が発見されました。この建物基礎は、60～70cmの方形と考えられる基礎と、150cm程の長方形と考えられる基礎が、1間（約180cm）から1間半（約270cm）の間隔で並んで検出されました。またこれらの基礎は、ローム土と暗褐色の土を交互に硬く締め、その間に瓦や礫、陶磁器などを敷詰めていました。これは版築という伝統技法で、基礎の支持力が増すとされ、現存する建物としては、京都の三十三間堂などがこの技法を使用しています。豊島区の遺跡では、版築構造の遺構が多く発見され、近年の調査では、2010年度の発掘調査で、アソシア巣鴨地区でも同じような版築構造の建物基礎が見つっています。

巣鴨遺跡 東洋プロパティ店舗地区

2015年2月中旬からおよそ1ヶ月間、発掘調査が行なわれました。この調査地区は、地蔵通りに面しており、目と鼻の先にとげぬき地蔵で有名な高岩寺がある、大変賑やかな場所での発掘調査となりました。こういった場所ですから、毎日が見学会のような状態で質問攻めとなり、作業の手を止めることもしばしばです。

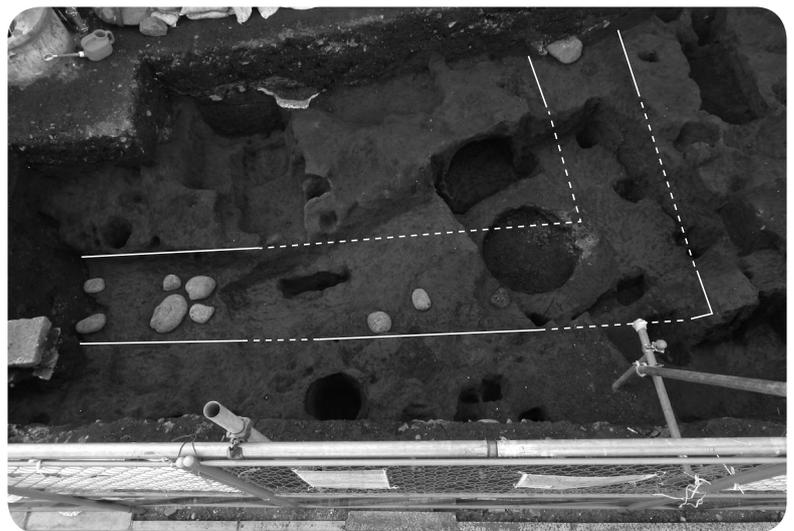
発掘調査では、近世から近代にかけての遺構・遺物が発見されています。特に現場周辺は、江戸時代後期の町家の痕跡が多く発見されており、当地区でも同じような成果になると考えていました。しかし実際に現場から出土する遺物は、17世紀代からの遺物も多く見られ、これに伴う遺構も発見されています。その他に、鍛冶炉と考えられる遺構や生垣の跡、地下室なども発見されています。また近代の土蔵の布基礎と考えられる遺構が発見されました。これは、巣鴨遺跡の類例があまりなく、近代の巣鴨町の様子を知る重要な発見となりました。

これらの調査の成果は、整理作業を通して遺構や遺物の時期、調査地区の土地の使われ方、歴史的背景など一つ一つ丁寧に紐解いていきます。そうすることで初めて発掘調査の成果が裏付けされるのです。まだまだ時間がかかる作業となりますが、今後の報告をお待ちください。（榎本邦人）



地下室と植栽痕と考えられる遺構

地下室（写真左下）の底面や壁面には、杭痕がみられます。なんのための杭痕なのか、現在調査中です。



土蔵の布基礎の一部

地蔵通りの裏手で検出されました。調査区外に延びるため、正確な規模は不明です。またL字状に検出されていますが、全体はコの字または方形に基礎が築かれていると考えられます。

中世城館と考古学

2015年11月から2016年1月にかけて、「戦国の城を歩こう - 中世城館と考古学 -」と題した考古学講座が、行なわれました。全3回の講座は、当会理事の橋口定志が講師を勤め、雑司が谷地域文化創造館の講座として毎年開講されています。今回は初回が創造館での座学、2回目が八王子市の片倉城、3回目が同じく八王子市の八王子城での巡検で、実際に現在も残されている城の痕跡を巡りました。



片倉城址

土塁や櫓台など、遺構の保存状態は良好で、城館講座の入門には最適な城です。最寄り駅からのアクセスも良く、休日になると老若男女問わず、多くの方が訪れています。

2回目に訪れた片倉城は、15世紀末～16世紀前半に築かれた城で、現在は公園として整備されています。

3回目の八王子城は、後北条氏の武蔵国西部の拠点として16世紀後半の戦国時代末期に築かれた山城です。最奥の詰の城まで、橋口理事の説明を交えながら2時間弱の登山となりました。

寒い冬の城歩きとなりましたが、受講された方々は、寒さに負けず城歩きを楽しんでいました。



八王子城ガイド施設前で解説（写真左）と八王子城の尾根道（写真右）

八王子城は谷や山の尾根などを利用して築かれた城で、石垣や堀切などが残っています。また近年の発掘調査で、御主殿脇に池の跡など庭園空間が発見されています。

片倉城へは、京王線京王片倉駅より徒歩5分、八王子城へは、JR高尾駅から直通バスで20分（土日祝のみ）です。片倉城、八王子城共に駐車場が完備されています。新緑の季節、散策に訪れてみるのはいかがでしょうか。

「鎌倉講座」 in 千早地域文化創造館



長谷寺前の様子

馬淵さんの説明に受講生はもちろん、偶然通りかかった観光客のみなさんも耳を傾けていました。

候も穏やかで、史跡めぐりには絶好の天気となりました。朝9時半に鎌倉駅に集合し、江ノ電で極楽寺駅に向かいました。午前中は極楽寺から切通しを抜けて長谷寺へ向かい、お昼ご飯を長谷寺近辺の蕎麦屋で済ませ、午後は長谷寺から大仏のある高德院へ向かいました。夕方には、大仏北側の山中にある「大仏切通し」を見学し、乗合バスを使って鎌倉駅まで戻りました。解散は午後3時頃です。ほぼ歩き通しで、最後の切通しにはちょっとした藪漕ぎをして山中に分け入ることとなった一日掛かりの行程でしたが、怪我もなく無事に最後まで終わることができました。

大阪の四天王寺の別当や奈良東大寺の大勧進など大役を務めることとなる忍性にんしやうが開山し、かつては大きな権勢を誇った極楽寺や、その本寺である奈良西大寺さいだいぜんの影響の下に、北条家の政治的思惑も絡んでつくられた可能性のある長谷寺など、鎌倉西南部にある古寺がもつ背景について、鎌倉の研究者の馬淵さんならではの視点で、解説していただきました。有名な観光スポットで誰しもが訪れたことのあるような場所に奥深い背景があることに参加者のみなさんは関心を持たれたようで、馬淵さんの説明を熱心に聞き入っておられました。

最近ではNHKの番組の「ブラタモリ」で広く知られるようになりましたが、地域専門の様々な分野の研究者がいます。当会としましても、これらの研究者と皆さんとの懸け橋となるような役目を担いたいと考えております。(山崎吉弘)

昨年の11月と12月に(公財)としま未来文化財団から委託を受けて、千早地域文化創造館において講座「初冬の鎌倉歴史散歩—極楽寺から大仏へ—」を開催しました。鎌倉についての講座は、勤労福祉会館においてこれまでに2度開催してきましたが、諸事情により、場所を千早地域文化創造館に移すことになりました。講師は、以前と同様に、中世鎌倉について研究されている馬淵和雄さんをお願いしました。11月に地域文化創造館で座学、12月に鎌倉現地に赴いて、実際に史跡を巡り、解説をしていただきました。受講者は総勢24名です。

今回は、極楽寺から、長谷寺を経由して、大仏に至る鎌倉西南部を巡りました。12月の現地解説の日は、師走ということで寒さが気になりましたが、心配したほど気温は下がらず、天



大仏切通し

藪漕ぎの先には深い切通しがありました。

平成 27 年度事業報告・会計収支報告

平成 27 年 11 月 20 日に当会 9 回定期総会が行われ、平成 27 年度(平成 26 年 10 月 1 日から平成 27 年 9 月 30 日まで)の事業報告とこれに伴う会計収支をご報告いたします。

◎事業報告

1) 発掘調査

豊島区教育委員会と連携して区内 12 カ所で合計 14 件の埋蔵文化財試掘調査・本調査を実施しました。試掘調査の件数は昨年度より半減しましたが、本調査は 4 件と調査件数が増えました。

2) 整理調査・報告書刊行

報告書刊行に向けた整理作業は 5 件。豊島区埋蔵文化財調査報告 1 冊を編集、としま遺跡調査会調査報告 1 冊を刊行しました。また、平成 25 年度に行った国庫補助対象事業の概報(試掘調査中心)を一冊にまとめた『豊島区埋蔵文化財調査概報集 10』を編集しました。このほか、作業継続中のものとして平成 28 年 3 月に刊行予定の豊島

区埋蔵文化財報告が 2 件があります。

3) 普及啓発

豊島区からの委託事業としては、平成 26 年 11 月に豊島区の文化財展 2014 を区役所本庁舎ロビーで開催しました。またとしま未来財団と連携した展示(雑司が谷地域文化創造館、千早地域文化創造館)を実地しました。

4) 人材育成

豊島区立勤労福祉会館と連携し、『豊島区の遺跡をあるく』、『江戸城を知る』と題した区民講座を実地しました。また雑司ヶ谷地域文化創造館において考古学講座『戦国の城を知る』を実施しました。

<平成 25 年度 会計収支決算>

(単位:円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
会費収入	24,000		
賛助会費収入	35,200		
入会金収入		59,200	
2 事業収入			
発掘調査事業	12,938,544		
整理調査事業	6,295,854		
報告書作成事業	3,524,375		
普及啓発事業	594,081		
人材育成費	0	23,352,854	
3 補助金等収入			
短期借入金収入		0	
5 その他収入			
利息収入	3,932		
雑収入		3,932	
収入合計(A)			23,415,986

科 目	金 額		
II 支出の部			
1 事業費			
(1)人件費	9,417,897		
(2)その他経費			
外注費	9,436,954		
交通費	19,416		
通信費	0		
消耗品費	984,384		
(印刷費含む)		19,858,651	
2 管理費			
(1)人件費			
給料手当	2,199,165		
法定福利費	171,284		
福利厚生費	252,000	2,622,449	
(2)その他経費			
交通費	0		
通信費	18,602		
消耗品費	0		
支払手数料	113,984		
賃借料	176,100		
リース料	459,900		
租税公課	154,700		
雑費	11,600	934,886	
支出合計(B)			23,415,986

当期収支差額(A)-(B) 0
前期繰越収支差額(C) 1,158,331

合計(A)-(B)+(C) 1,158,331

◎会計報告

会計収支計算の結果、会費等の収益が 59,260 円となりました。支出については、会報発送料や考古学講座の参加費等、合計 26,144 円となりま

した。よって繰越金の合計は 319,146 円となりました。これらの繰越金については、会員向けの講座やイベントなどで使用させていただく予定です。

〈平成25年度 会費収支決算〉

(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入会金収入		
正会費収入	24,000	
賛助会費収入	35,200	
入会金収入	0	
寄付金		59,200
2 その他収入		
利息収入	60	60
収入合計(A)		59,260

科 目	金 額	
II 支出の部		
1 会費・入会金支出		
会報発送料	13,724	
総会資料発送料	1,000	14,724
郵送料	420	
総会会場費	4,300	
講座参加費	2,600	
総会交通費	3,000	
消耗品	1,100	
		11,420
支出合計(B)		26,144



当期収支差額(A)-(B) 33,116
 前期繰越収支差額(C) 286,030

合計(A)-(B)+(C) 319,146

おしらせ
 としま遺跡調査会主催
バスツアーに向けて準備中です



富士宮市人穴

32号で掲載しました「富士講バスツアー」に向けて、準備を進めています。開催時期は、秋口を予定しています。日時等、詳細が決定次第、つたのはやハガキ等でお知らせいたします。もうしばらくお待ちください。



【編集後記】

- 今回の「つたのは」は、合併号としてお届けいたします。
- 発掘調査が秋まで続きます。人手不足のため、会報発行が遅れ、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしておりますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。(㊦)

編集・発行

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-8-9 巣鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@atoshima.ne.jp

ホームページアドレス: <http://www.toshima-iseki.org/>

題字: 湯澤和子

ロゴデザイン: 石原幸

イラスト: 島村篤子 菅沼晶子 千葉弘美

「つたのは通信」の由来: 蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。